

講演会「この史代『この世界の片隅に』を語る」

10月1日(土)に漫画家・漫画評論家のいしかわじゅん先生をお招きして、『この世界の片隅に』について語っていただきました。

いしかわ先生が初めに感心していたのは下調べの細かさです。自分の分からないことを描こうとするのは相当な決意が必要だっただろうと、この先生がこの作品を描いた時の心情を推察しておられました。



この先生の作品は、戦争を題材にしてもその辛さや悲しみをストレートに描くのではなく、その周辺を間接的に描いて、読んだ読者が自由に様々な感情を見つけ出すことのできる構成になっているとのことでした。

マンガは通常だと印象的な場面はページをめくってすぐの右側に来るように描くそうですが、この先生は左側に描いています。これはこの先生の演出で、意図的に左側に描いているのだろうとおっしゃっていました。

同じ漫画家という視点からとても面白い指摘をたくさんしていただきました。

いしかわ先生、参加者の皆様、どうもありがとうございました！